

第1回 湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン検討委員会 会議録

【開催日時】令和6年8月28日（水）午後1時00分～2時30分

【開催場所】湖南省役所東庁舎 3階大会議室

【出席委員】榎原 友樹（委員長）・山出 富貴子・千代 崇・小山 貴司・中江 彰男・徳永 千恵子・
吉本 智・芦刈 義孝（副委員長）（以上8名）

【欠席委員】佐々木 榮一（以上1名）

【オブザーバー】加納 大樹・間野 智也（以上2名）

【配布資料】資料1 湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン 改訂方針

資料2 湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン検討委員会 設置要綱

資料3 委員名簿

1. 開会

あいさつ

2. 委員紹介

3. 議事

（1）湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン 改訂方針

事務局：（「資料1 湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン 改訂方針」について説明）

委員長：ただ今の説明について、委員の皆様より意見、質問等を伺う。
まず、プロジェクト①について、委員より意見等をお願いする。

委員：プロジェクト①について、市民共同発電所プロジェクト事務局からの意見として、市民共同発電所の新たな導入は困難であると思う。
その理由は、発電所1号機と2号機は買取価格が40円/kWhであったが、3号機と4号機は35円/kWhまで減少しており、5円の差であるが、3号機と4号機は現段階では収支マイナスの状態である。今後を含めた稼働から20年間で収支がプラスになる見込み。

また、3カ月前より、関西電力から「代理制御調整金」が買取価格から差し引かれることになり、月によって異なるが概ね1割程度が差し引かれている。

資料に記載のとおり、単独のプロジェクトとしてではなく、他のプロジェクトと一緒にまとめていただければと思う。

副委員長：自然エネルギーを作って売るだけではなくて、今後は「作ること」と「使うこと」、また、「選ぶこと」が大事である。

プロジェクト①に限らず、「作ったものに合わせて使う」、「使う量を減らす」、「自然エネルギーを作って使うことに関わる」ことが重要であり、プロジェクト①に関

しては、作るだけでなく“使うこと”に重点を置き、価値を見出すことも含めて取り組んでいくことで、市民としても関わっていきやすくなり、現状を脱却できる可能性がある。

委員長： プロジェクト③について、関係する委員の皆様より意見等をお願いする。

加納ワザバー： 脱炭素先行地域の事業計画と目標値をあわせていくことで良いかと思う。オブザーバーの立場であるが、湖南省の脱炭素先行地域の申請者の一団体として、PPA 事業を応援していく。

副委員長： PPA 事業は、太陽光で電気を「作ること」と「使うこと」がセットになっているため、そういった意味では取り組みやすい。

委員： 公共施設 12 件、福祉施設 45 件、民間企業 20 件の数値の根拠はなにか。

事務局： 環境省が湖南省を「脱炭素先行地域」に選定しているが、その選定までの流れは以下のとおり。

申請書類となる事業計画の中に、湖南省における今後の太陽光発電や蓄電池等の導入量を記載した上で、湖南省から環境省へ申請書類を提出し、その書類を確認した上で環境省が審査を行い、「脱炭素先行地域」へと選定する。その後、湖南省へ交付金が交付される流れとなっている。

事業計画の中で、公共施設、福祉施設、民間企業にあたっては、2030 年までに公共施設 12 件、福祉施設 45 件、民間企業 20 件で申請している。

副委員長： 事務局の回答を補足すると、脱炭素先行地域の趣旨として、民生部門（事業所・ビル、商業・サービス業務施設や、家計が住宅内で消費したエネルギー等※自家用車や公共交通機関の利用など人・物の移動に利用したエネルギー源の消費は全て運輸部門に計上）である公共施設と福祉施設、家庭等のゼロカーボンを目指すというのが一つある。

電力の使用量を全て自然エネルギーに変えるというのが大きな目標。それぞれに太陽光パネルを設置してゼロカーボンを達成する。

市内事業者・家庭の電力使用量から、ゼロカーボンを目指すために必要な導入量（導入件数）÷導入目標を算定した。

その数値が湖南省のひとつのモデル的な目標である。

委員： 対象地域はどの辺りか。

副委員長： 対象エリアや施設は決まっており、補助金が交付される条件として、「公共施設であること」、「市内の民間企業であること」、「市内の一般家庭であること」。

事業計画以外にも、太陽光発電を導入したいという相談も数件いただいているため、そこも含めて新たな目標を検討してはどうか。

委員： 件数の他、太陽光発電の設置面積は関係あるか。

副委員長： 設置面積は広いほど良いかと思うが、事業所によっては太陽光の発電量が施設での電力使用量を超過する場合も考えられるため、一概には言えない。

委員： 導入にあたってのハードルとなる事項はあるか。

副委員長： ハードルとしては、まず、太陽光発電を設置して使って頂くということを選択していただけるか。

経済的メリットは、太陽光の発電量と施設での電力使用量のバランスに左右されることもあり、脱炭素先行地域の交付金も 100%補助ではないため、ある程度の持ち出しも必要となり、そういったリスクが考えられる。

また、耐震性などの施行条件も考慮する必要がある。

委員： 耐震性や耐火性、防水性といった施行条件をクリアしていくにあたっては、市内の建築事務所などとも連携して取り組んでもらえたらと思う。

委員長： 新しいプロジェクトが、脱炭素先行地域の範囲内だけで良いのかという議論はあって然るべきと思う。2050 年カーボンニュートラルに向けては、目の前の数字を積み上げるだけでは難しい。また、トップランナーにもなれない。市民や企業が全部出資する仕組みに加え、その一部を出資できるような仕組みも検討できるかもしれない。

委員長： プロジェクト④について、委員、意見等をお願いします。

委員： イモを発酵させて生成したメタンガスで発電することに成功したが、発電機がイモ協議会では上手く稼働できず、生成されるメタンガスの濃度が低くなる。ほか、生成したメタンガスを保管しておく場所など、様々な問題がある。

当初の目標のスマホには充電ができた。それをもって市民ができる発電は一旦休止した。

そこからどうするかイモ協議会で話し合いを行った。

現在はソーラーシェアリングの下でさつまいも以外の作物を作る、農福連携への方向転換を進めている。

イモ発電を休止したことで、それまで関わってくれていた小学校が一斉に撤退した。小学校は水やりを行ってくれていた。

目標が「イモ栽培への参加者：2,000 人」となっているが、イモ以外も含めた取組への参加者としては、達成できると思う。農福連携については、福祉作業所が前向きであり、また別の場所でのソーラーシェアリングも検討できたらと思う。

副委員長： 新たなソーラーシェアリングの設置については、現場での議論を追いかけながら提案できたらと思う。

委員： 新たな参加者への呼びかけとして、どのような情報発信を行っているか。

新聞を定期購読していない家庭には広報が届かない。

委員： 広報だけでなく、平和堂やまちづくりセンターにもチラシを置いている。今後、ホームページをつくる。

取組に参加したい人は実際にいる。ただきっかけがない。情報の発信の仕方が大事。今年、イモの苗を市民に配布することを情報発信した際に、配布開始が午前 10 時からであったが、9 時 30 分頃から多くの方に来ていただいた。想定より多く、110 袋程度配布できた。来年は情報発信の仕方も工夫し、もっと多く配布するなど、考

えられたらと思う。

副委員長： 太陽光を作りながら、その下で育てた作物を食べる。薪を使って熱エネルギーを生成し、調理するなど、自然エネルギーを使ったイベントなど検討できたらと思う。

委員長： プロジェクト⑤について、委員、意見等をお願いする。

委員： 取組が広がっていないのが現状。

丸太については、地域の生産森林組合から、林地残材を 3,000 円/軽トラ 1 台で購入している。

薪への加工について、玉切りする人がいない。団体の皆は社会人であるため、中々集まって作業ができない。やる人がいないのが課題。

ほか、販路拡大の課題もある。

委員長： 参加者がいないとのことだが、意見はあるか。イベントによる声掛けや、イベントでの薪割り体験なども検討できないか。

事務局： 一昨年より、秋頃にイベントを開催している。その中では、薪割り体験などを行い、子どもが楽しく参加されていた。今年もイベントを行うとともに、大学等に働きかけて、参加者を募る。

委員長： プロジェクト⑥⑦について、委員、意見等をお願いする。

副委員長： できるだけ自然エネルギーをたくさん使いたいと考えており、自然エネルギーの量を増やすだけでなく、施設でのエネルギーの使用量を減らして、自然エネルギーの割合を増やしたい。

プロジェクト⑥では省エネにも取り組んでいる。

太陽光は発電する時間が限られているため、蓄電池もあわせて導入し、その施設の電力需要にあわせて自然エネルギーの電気を上手に使うことや、逆に太陽光の発電に沿って需要を作るなどを進めていきたい。そうすると脱炭素化につながる。

プロジェクト⑦は、施設単体ではなく複数を組み合わせることによって補い合う方式であり、場合によっては、より自然エネルギーを使いやすくなるかと思う。

委員長： 会議全体を通して、委員の皆様より意見、質問等をお願いする。

委員： こういった会議は初めてであり、分からない言葉が出てきたが、まず、私個人として取り組むべきは、エネルギーの使用量を減らすことと感じた。

委員： 私も初めてであるが、会社としても太陽光発電から蓄電池の事業を新たに取り組んでいる。今回、参加して取り組みを一緒にできる方々もおり、非常に勉強になった。引き続き、参加させていただきたい。

委員： 事業者としては、コストを下げるかが大事と思う。本会に参加するにあたって個人的に調べてみたが、太陽光パネルも進化しており、壁などに設置する薄型の設備もあった。そのほか、トラックの上に乗せて使う事例などもあり、面白いと感じた。工業団地はある程度、広い場所を使っているため、そこで発電した電気を団地内の施設に供給していくという形ができればと思う。

- 委員： 私たちは商工会の団体であり、自然エネルギーを作る、使うなどの推進にあたって、私たちの市内の商工会ネットワークを活用してもらえればと思う。
- ワグナー： 自然エネルギーの設置について、個人レベルでは苦戦されている印象。
市民がどれだけ本プロジェクトを認識しているか。まだまだ課題を感じている。
- ワグナー： 滋賀県も自然エネルギーの導入を進めていければと思う。
新たな戦略プランを区域施策編として整理するためには、削減目標や体系的な施策の整理、促進事業の位置づけも必要になる。
県の計画等も確認いただきたい。整理をするにあたって、また調整したい。
- 委員長： プロジェクトの進捗状況や目標について、意見等をいただいた。
次回の委員会では、意見等に対応した検討資料をお願いします。数値のみに焦点を当てるのではなく、プロジェクトを具体的に進める議論を行いたい。

4. 閉会